

みななへ版

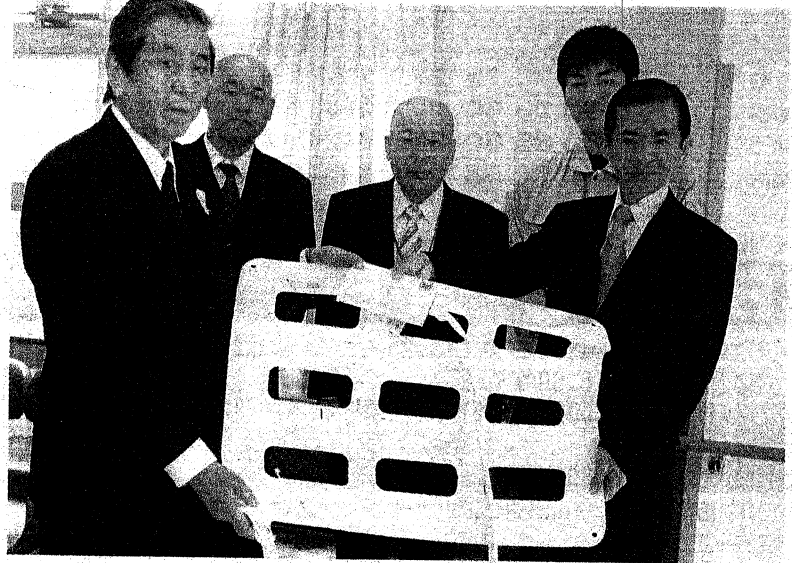
二コースはインターネットでも見る事ができます。
www.ogc.ne.jp/kspress/
 街の話題や事件事故、
 ご意見、ご要望など、
 なんでも情報をお寄せ下さい。
ksyu@silver.ogc.ne.jp

24時間、要介護者の心拍や動作感知

ときわ寮に介護用補助機器寄贈

横浜市に本社がある介護用機器販売会社の㈱T&Sが6日、みなへ町滝の特別養護老人ホーム「ときわ寮梅の里」に心拍や動作など生体活動情報を感じて通報・報告するシステムを導

入した介護用補助機器5台を寄贈した。開発業者らによると、要介護者にセンサー等を取り付けない形では世界初の機器で、すでに民間で全国展開しているが、県内では初導入で公共



木田取締役(前列右)から小谷町長(前列左)らに機器を手渡す

の福祉施設では全国で初の事例という。同システムを活用すると24時間、要介護者の様子を感知できるのが最大のメリットで関係者は「職員が早期対応でき、労力の軽減も図れたら」と介護現場での活躍を期待している。

高齢者や要介護度が高い人には過去の病歴や環境などから急な体調の変化をもたらす、死に至るケースが多いと言われ、孤独死が問題視されている。こういった体調の変化を早期に捉えるために開発されたのが、この安心・安全・見守りシステム「aams」。

高感度のセンサーを備えたエアーマットで呼吸、心拍、体動、離着床を感知し、情報を蓄える機能も持たせ、感知後は無線で直ちにパソコンや携帯電話に通報、報告するシステムを取り入れた介護用補助機器。

11月に開発したばかり。「aams」の販売元であるT&Sの木田裕生取締役がみなへ町の出身で、ときわ寮を運営管理する御坊日高老人福祉施設事務組合の管理者を小谷芳正みなへ町長が務めている関係から、事務組合管理の福祉施設への機器導入を木田取締役が小谷町長に提案し、今回、寄贈に至った。

6日には木田取締役やbio sync(株)の富田雄一代表取締役、㈱ジェイエスピーシステム部マネジ

メントグループの山本岳洋課長らが滝の同施設を訪れ、小谷町長や田中伸英施設長らと対面し、性能や使い方などを説明。機器を贈呈し、必要度が高い入所者のベッドに備え付けた。ほかにも4日、5日に美浜町の同事務組合が管理する美浜町の「ときわ寮」や日高川の「ときわ寮川辺園」にそれぞれ5台ずつ設置済みという。

「aams」はすでに県外の全国各地の民間施設に約500台を導入しており、介護を必要とする個人宅へ対応した機器も今月から販売が始まっており、6月から納入開始予定。木田取締役は「患者の容態急変対応のほか、認知症高齢者の徘徊防止対応や緊急呼び出しの優先度など臨床確認のために設置した病院や介護施設等でも有効性の意見も頂いている。介護士の労力軽減と早期対応に寄与する。今回の寄贈で公共の福祉施設でのモデル的な取り組みになれば。」

富田代表取締役は「徘徊防止が必要か必要でないかなど個人それぞれに合わせた設定も可能。すべての情報が入座に介護ステーションに集まり、名前や部屋番号、状態がリアルタイムでパソコンに明示され、一目で分かるので対応しやすい」と有効性を説明。

小谷町長は「地元老人福祉向上のために寄贈はありがたい。利用状況を見ながら、今後、増やせるかも検討したい。これを契機に個人宅での普及も期待したい」と述べ、田中施設長も「管理体制は維持するが、常に一人に張り付くことは

できず、夜間時など介護職員にとって心強く、ありがたい。有効に活用していきたい」と話した。